

三重県、桑名市視察に向けた船橋市の教育における初期適応指導教室の状況について（概要）

項目と本市の状況	詳細（根拠・参考）資料
① 日本語教育を必要とする児童生徒の実態 ・令和7年5月現在で船橋市立学校在籍の日本語指導を必要とする児童生徒数は424人で昨年度より59人増加している。 ・言語については、中国語を母語とする児童生徒が204人、ネパール語59人、ベトナム語39人が多く、その他122人の言語についてもタガログ語やシンハラ語に加え、ルーマニア語やビサヤ語という希少な言語を有する児童生徒も在籍している。外国から編入してくる児童生徒は、年々増加傾向である。	・船橋市立学校における帰国・外国人児童生徒在籍数（令和7年5月1日現在）
② 日本語指導のための本市の体制 ・日本語指導員（会計年度任用職員）による指導 中国語2人（週5日勤務）、ポルトガル語1人（週4日勤務）、スペイン語1人（週5日勤務）、タガログ語1人（週4日勤務） ・日本語指導協力員（有償ボランティア）による指導 56人（令和7年9月1日現在） ・希望する学校及び児童生徒に翻訳機の貸与 学校使用分209台貸与 ・小学校4年生以上の児童生徒を対象にした週1回のオンライン日本語指導の実施（前期6月～10月 後期11月～2月） ・指導課国際理解教育係による編入時の面談。 日本語を理解することができない児童生徒については、指導課の担当が面談を行い、日本語の習得状況について確認している。確認した内容を編入学校にも通知し、初登校日には日本語指導員が同行するなど児童生徒が安心して日本の学校生活を送れるよう支援している。保護者が、日本語を理解することができない場合については、日本語指導員等が面談及び学校手続きに同行し、母語で説明を行うなど支援している。	

③	日本語指導の状況 ・日本語指導員による指導については、進路の関係上、中学校を中心に指導を行っている。指導時間については、1日のうち午前、午後と学校をまわり指導を行っている。 ・日本語指導協力員については、国際交流協会から紹介を受けた日本語指導経験者が、主に小学校を中心に指導を行っている。指導時間については、1人の児童生徒につき週1回2時間程度を目安としているが、初期指導に係る時間については児童生徒の実態に応じて変更する場合もある。	
④	初期適応指導教室の状況 ・日本語指導員及び日本語指導協力員が、はじめの10回を児童生徒の母語を活用しながら、学校生活の約束や教具の使い方などについて説明等を行う。次のステップ10回では、会話やあいさつなど一語文で意思疎通を図れるような学習を行えるようにしている。回数については、児童生徒の習得状況に合わせてながら指導を行っている。	

岐阜県、各務原市視察に向けた船橋市の教育における基礎学力 定着事業の状況について（概要）

項目と本市の状況	詳細（根拠・参考）資料
① 本市における基礎学力定着事業の状況について 各務原市のような放課後や休日に学習する事業は行っていない。基礎的・補足的な学習については、夏休みなどを活用して実施している学校が多い。	